基準8 専攻科課程の教育活動の状況

評価の視点

8-1 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、教育課程が体系的に編成され、専攻科課程としてふさわしい授業形態、学習指導法等が採用され、適切な研究指導等が行われていること。また、専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)並びに修了の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、成績評価・単位認定及び修了認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。

|観点8-1-① 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。

【留意点】

- 観点1-2-⑤の教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえた授業科目の配置となっているか分析すること。
- 本評価書Ⅰ(1)4. において、特例適用専攻科又はJABEE認定プログラムについて記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果 を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の項目について、個別の記入は要しない。

観点の自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

(根拠理由欄)

本校の専攻科(生産システム工学専攻)は,平成27年4月に大学改革支援・学位授与機構から特例適用専攻科として認定を受けており,その際,教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき,授業科目が適切に配置され, 教育課程が体系的に編成されていることが確認されている。

自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。	◇カリキュラム一覧表、授業科目系統図等の授業科目配置状況がわかる資料		

観点8-1-② 準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。

【留意点】

○ 本評価書Ⅰ(1)4. において、特例適用専攻科又はJABEE認定プログラムについて記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果 を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の項目について、個別の記入は要しない。

観点の自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

(根拠理由欄)

本校の専攻科(生産システム工学専攻)は,平成27年4月に大学改革支援・学位授与機構から特例適用専攻科として認定を受けており,その際,準学士課程の教育との連携,及び準学士課程の教育からの発展性を考慮した教育課程となっていることが確 認されている.

自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 専攻科の教育課程は、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮しているか。	◇連携及び発展等の考慮状況がわかる資料		

観点8-1-③ 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。

【留意点】

○ 本評価書 I (1) 4. において、JABEE認定プログラムについて記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由 を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。

観点の自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

(根拠理由欄)

満たしていると判断する場合であって、JABEE認定プログラムの認定に係る結果を利用する場合は、当該結果が利用できると判断した根拠理由を記述すること。なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の各項目について分析すること。

自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、 講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態が採用されているか。	◇授業形態の開講状況(バランスを含む。)がわかる資料		
■ 採用されている	<u>資料8-1-3-(1)-01 「カリキュラム・ポリシーおよび教育課程」</u>		
	<u>資料8-1-3-(1)-02 「授業形態のバランス」</u>		
	<u>資料8-1-3-(1)-03 「カリキュラム・ポリシーとの対応」</u>		
	◆授業形態のバランスが適切であることについて、資料を基に記述する。		
	基本教育目標および専攻科の教育課程の編成・実施方法(カリキュラムポリシー) に沿って教育課程を編成している(8-1-3-(1)-1). 授業形態は、一般科目とコース 専門科目および共通専門科目がバランスよく配置されている(8-1-3-(1)-2)). そ して、開講科目の講義、演習、実験実習はそれぞれのCPに整合した科目が適切に 配置され、バランスがとれたカリキュラム編成がなされていることが分かる(8-1-		
(A) #	3-(1)-3).		
(2)教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。(該当する選択肢にチェック■する。)	◇チェックした項目の実施状況がわかる資料		
■ 教材の工夫	<u> 資料8-1-3-(2)-01 「学習指導上の工夫(実施要項)」</u>		
	<u> 資料8-1-3-(2)-02 「教員アンケート(学習指導上の工夫)」</u>		
	<u> 資料8-1-3-(2)-03 「教員アンケート(教材の工夫)」</u>		
■ 少人数教育	<u>資料8-1-3-(2)-04「専攻科受講者一覧」</u>		
	<u> 資料8-1-3-(2)-05 「シラバス」一般科目・共通専門科目 専攻科実験」</u>		
	<u>資料8-1-3-(2)-06「教員アンケート(少人数教育)」</u>		
■ 対話・討論型授業	<u>資料8-1-3-(2)-07 「技術者倫理 プレゼンテーションのクリッカー投票」</u>		
	<u>資料8-1-3-(2)-08「教員アンケート(対話・討論型授業)」</u>		
■ フィールド型授業	<u>資料8-1-3-(2)-09 「実践的デザイン工学実習テキスト」</u>		
	<u>資料8-1-3-(2)-10「教員アンケート(フィールド型授業)」</u>		
■ 情報機器の活用	<u>資料8-1-3-(2)-11 「令和二年度専攻科遠隔授業オリエンテーション」</u>		
	<u>資料8-1-3-(2)-12 「教員アンケート(情報機器の利用)」</u>		
■ 基礎学力不足の学生に対する配慮	<u>資料8-1-3-(2)-13 「教員アンケート(基礎学力不足学生への配慮)」</u>		
■ 一般科目と専門科目との連携	<u>資料8-1-3-(2)-14 「教員アンケート(一般科目と専門科目との連携)」</u>		
□ その他			

◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料	
を提示する。	

観点8-1-④ 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、教養教育や研究指導が適切に行われているか。

【留意点】

- 教養教育の実施状況や学生の研究指導が、学校教育法上の目的及び学校の教育の目的を達成する上で適切なものであるかどうかを分析すること。
- 本評価書 I (1) 4. において、特例適用専攻科について記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述する こと。自己点検・評価結果欄の項目について、個別の記入は要しない。

関係法令 (法)第119条第2項

観点の自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

(根拠理由欄)

本校の専攻科(生産システム工学専攻)は,平成27年4月に大学改革支援・学位授与機構から特例適用専攻科として認定を受けており,その際,準学士課程の教育との連携,及び準学士課程の教育からの発展性を考慮した教育課程となっていることが確 認されている.

自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学生への教養教育や研究指導を、適切に行っているか。	◇教養教育や研究指導の実施状況がわかる資料		

観点8-1-⑤ 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。

【留意点】

○ 本評価書 I (1) 4. において、JABEE認定プログラムについて記載した場合は、その評価結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠 理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。

観点の自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

(根拠理由欄)

満たしていると判断する場合であって、JABEE認定プログラムの認定に係る結果を利用する場合は、当該結果が利用できると判断した根拠理由を記述すること。なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の各項目について分析すること。

自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー) に基づき、策定しているか。	◇成績評価や単位認定に関する規定等の該当箇所		
■ 策定している	資料8-1-5-(1)-01 「専攻科の3つのポリシー」		
	<u> </u>		
	資料8-1-5-(1)-03「専攻科の科目課程表」		
	資料8-1-5-(1)-04 「授業科目の履修等に関する規程」		
(2) 成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。	◇成績評価の組織内でのチェック等、成績評価が適切に実施されていることがわか る資料		
■ 行っている	資料8-1-5-(2)-01 「成績評価シート(訪問調査時閲覧資料)」		
	資料8-1-5-(2)-02 「進捗度評価シート(訪問調査時閲覧資料)」		
	資料8-1-5-(2)-03 「学業成績評価に係る保存資料 (訪問調査時閲覧資料)」		
	資料8-1-5-(2)-04 「専攻科修了判定資料 (訪問調査時閲覧資料)」		
	資料8-1-5-(2)-05 「専攻科委員会議事録(修了判定)」		
(3) 1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握しているか。	◇学校として把握していることがわかる資料		
■ 把握している	資料8-1-5-(3)-01 「令和元年度教員アンケート(授業時間外の学習状況の把握)」		
	資料8-1-5-(3)-02 「令和元年度教員アンケート(自主学習状況の把握)」		
(4) 成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。	◇周知を図る取組の内容(学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。)が わかる資料		
■ 周知している	資料8-1-5-(1)-03 「専攻科の科目課程表」		再掲
	<u> 資料8-1-5-(1)-04 「授業科目の履修等に関する規程」</u>		再掲
	資料8-1-5-(1)-02 「専攻科のシラバス」		再掲
(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。	◇認知状況がわかる資料		
■ 把握している	資料8-1-5-(5)-01 「学生の認知状況アンケート」		
(6) 追試、再試の成績評価方法を定めているか。	◇追試、再試の成績評価の規程等がわかる資料		
■ 定めていない	<u> 資料8-1-5-(6)-01 「再試験に関する規程」</u>		
	◇成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会の規定等がわかる資料		
■ ある	資料8-1-5-(7)-01 「成績評価結果に関する学生からの意見申し立ての機会」		
	資料8-1-5-(7)-02 「答案返却日が明記された「進捗度チェックシート」」		

	Mail a — Sieles to to	1 3 3 12
)成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っいるか。(該当する選択肢にチェック■する。)		
いるが。 (該当する医が成にアエック ■ する。) ■ 成績評価の妥当性の事後チェック	資料8-1-5-(2)-04 「專攻科修了判定資料 (訪問調査時閲覧資料)	再掲
		1776
■ 答案の返却	<u> 資料8-1-5-(8)-01 「答案の返却についてわかる資料」</u>	┼
■ 模範解答や採点基準の提示	<u> 資料8-1-5-(8)-02 「答案の返却や模範解答の提示についてわかる資料」</u>	<u> </u>
□ GPAの進級判定への利用	<u>資料8-1-5-(8)-03「採点基準の提示についてわかる資料</u>	
□ 成績分布のガイドラインの設定	<u>資料8-1-5-(8)-04</u> 「複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことの チェックがわかる資料」	
■ 複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック	<u>アエックがわかる員件</u> 資料8-1-5-(8)-05「模範解答及び答案」	+
□ 試験問題のレベルが適切であることのチェック		+
□ その他		+
	◆実施状況や成績分布を踏まえて、成績評価や単位認定における基準の客観性・厳	+
	格性を担保するための措置が、有効に機能しているかどうかについて、資料を基に	
	記述する。	
	【成績評価の妥当性の事後チェック】	
	資料8-1-5-(2)-04 専攻科修了判定資料 (訪問調査時閲覧資料) (再掲)	
	年度末の専攻科委員会において、各科目の成績評価の確認を行っている。	
	【答案の返却】、【横範解答や採点基準の提示】	
	資料8-1-5-(8)-01 答案の返却についてわかる資料	
	資料8-1-5-(8)-02 答案の返却や模範解答の提示についてわかる資料	
	資料8-1-5-(8)-03 採点基準の提示についてわかる資料	
	資料8-1-5-(8)-05 模範解答及び答案	
	答案は前期末と学年末試験後に答案返却を実施している。答案返却、解答説明の	
	際、採点に問題がないかについても同時に確認している。教育点検委員会では、保	
	存資料提出日を設定し、教員自らが、委員に直接提出することになっている。その	
	際保存資料チェックシートをもとにシラバスどおりの成績評価、成績評価の保存資	
	料、模範解答をチェックしている。	
	【複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック】	
	資料8-1-5-(8)-04 複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことの	
	チェックがわかる資料	
	教育点検委員会が実施する保存資料等のチェックの際、複数年度で同一試験問題を	
	出題していないかについて口頭やアンケートで確認している。	
	◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容を記述する。	

観点8-1-⑥ 修了認定基準が、修了の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、修了認定が適切に実施されているか。

【留意点】

○ 本評価書 I (1) 4. において、JABEE認定プログラムについて記載した場合は、その評価結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠 理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。

関係法令 (法)第119条第2項

観点の自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

(根拠理由欄)

満たしていると判断する場合であって、JABEE認定プログラムの認定に係る結果を利用する場合は、当該結果が利用できると判断した根拠理由を記述すること。なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の各項目について分析すること。

自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
◇学則等の該当箇所がわかる資料		
<u>資料8-1-6-(1)-01 「専攻科の修業年限」</u>		
◇定めている該当規程や修了認定基準		
<u>資料8-1-6-(2)-01</u> 「本校のディプロマ・ポリシー」		
資料8-1-6-(2)-02 「修了認定基準」		
◇関係する委員会等の会議資料		
資料8-1-6-(3)-01 「修了判定会議に関する資料(専攻科委員会議事要旨)」		
資料8-1-6-(3)-02 「修了判定会議に関する資料(教員会議議事次第)」		
◇周知を図る取組の内容(学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。)が わかる資料		
資料8-1-6-(2)-02 「修了認定基準」		再掲
<u>資料8-1-6-(4)-01</u> 「周知を図る取組の内容(オリエンテーション資料)」		
<u>資料8-1-6-(4)-02</u> 「周知のためオリエンテーションを実施していることを示す日程 <u>表</u> 」		
◇学生の認知状況を把握していることがわかる資料		
資料8-1-6-(5)-01 「修了認定基準について学生の認知状況を学校として把握していることを示す資料」		
毎年度の始めに実施するオリエンテーションにおいて科目履修届の提出を指示している。その段階で全ての学生は認知しているとして扱っている。また、学生が提出		
	◇学則等の該当箇所がわかる資料	◇学則等の該当箇所がわかる資料

3 – 1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。 寺に専攻科課程の教育課程及び教育方法に関して、準学士課程の5-1及び5-2の内容を参考に、特記すべき個性や特色等があれば、自由に記入すること。			
評価の視点 8-2 専攻科課程としての入学者の受入れに関する方針(アドミッショ:	」 ン・ポリシー)に沿って適切に運用されており、適正な数の入学状況であるこ	۵.	
観点8-2-① 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシ-	-)に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れた	が適切に実施されているか。	
【留意点】 ○ 合否判定基準については、提示できるものがあれば、提示すること。』	自己評価書での提示が不可能な場合は、訪問調査時に提示すること。		
観点の自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)			
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。			
■ 満たしていると判断する			
自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)、特に入学者選抜 の基本方針に沿った入学者選抜方法(学生募集の方針、選抜区分(学力選抜、推薦 選抜等。)、面接内容、配点・出題方針等)となっているか。	◇入学者選抜要項、面接要領、合否判定基準、入学試験実施状況等がわかる資料		
■ なっている			
	資料8-2-1-(1)-01 「入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)」		
	資料8-2-1-(1)-02 「選抜の方法及び実施状況(高等専門学校長の推薦による選 抜)」		
	<u>※ソ 」</u> 資料8-2-1-(1)-03 「選抜の方法及び実施状況(AO選抜)」		
	資料8-2-1-(1)-04 「選抜の方法及び実施状況(学力試験による選抜)」		
	資料8-2-1-(1)-05 「選抜の方法及び実施状況(社会人特別選抜)		
	資料8-2-1-(1)-06 「専攻科入学者選抜 (推薦) の基本方針 (訪問調査時閲覧資		
	料)		
	資料8-2-1-(1)-07 「令和3年度専攻科入学者選抜(推薦)試験実施要項(訪問調査時		
	<u>閲覧資料)」</u>		
	資料8-2-1-(1)-08 「令和3年度専攻科入学者選抜(推薦)評価要領(訪問調査時閲		
	<u>覧資料)」</u>		
	資料8-2-1-(1)-09 「専攻科入学者選抜 (アドミッション・オフィス選抜) の基本方		
	針(訪問調查時閲覧資料)」 資料8-2-1-(1)-10「令和3年度專攻科入学者選抜(AO)試験実施要項(訪問調查時閲		
	直付0-2-1-(1)-10 TP和 3 年度等权科人子有速放(AU)訊號美施委項(訪问調宜時度 監資料)		
	資料8-2-1-(1)-11 「令和3年度專攻科入学者選抜(AO)実施要領(訪問調査時閲覧		
	<u>資料)</u>		
	資料8-2-1-(1)-12 「令和3年度専攻科入学者選抜(学力・社会人特別選抜)実施要		
	領(訪問調査時閲覧資料)」		
	資料8-2-1-(1)-13 「令和3年度専攻科入学者選抜(学力)の基本方針(訪問調査時 開覧資料)		

観点8-2-② 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)に沿った学生を受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

【留意点】

なし。

観点の自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。	◇検証の体制に関する資料		
■ 整備している	資料8-2-2-(1)-01 「専攻科委員会規程」		
	資料8-2-2-(1)-02 「入学試験委員会規程」		
	◇改善に役立てる体制に関する資料		
	資料8-2-2-(1)-03 「自己点検・評価委員会規程」		
	資料8-2-2-(1)-04 「自己点検・評価に関する実施基本方針」		
	資料8-2-2-(1)-05 「教育点検委員会規程 <u>」</u>		
	資料8-2-2-(1)-06 「教育改善委員会規程」		
	資料8-2-2-(1)-07 「教育改革FD委員会規程」		
(2)(1)の体制の下、実際に入学した学生が、入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)に沿っているかどうかの検証を行っているか。	◇検証を行っていることがわかる資料		
■ 行っている	資料8-2-2-(2)-01 「学生が入学者の受入れに関する方針に沿っているか検証を行っ		
■ 110 CV 2	ていることがわかる資料」		
	将来に対する目標が「ある」と答えた学生は86%、学習意欲が「ある」と答えた学		
	生は85%と、アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証		
	している。レポート・製図を含まない学習時間を4時間以上行っている学生は5%と		
	少ないので、自宅学習の具体的な方法や内容を学生に示す必要がある。		
(3) (2)の検証の結果を入学者選抜の改善に役立てているか。			
	資料8-2-2-(3)-02 「専攻科入学者選抜(アドミッション・オフィス選抜)につい		+
■ 改善に役立てている	<u>τι</u>		
	資料8-2-2-(3)-03 「AO入試の導入について」		
	資料8-2-2-(3)-04 「AO入試に向けた改善事項等について」		
	資料8-2-1-(1)-09 「専攻科入学者選抜(アドミッション・オフィス選抜)の基本方		
	<u>針(訪問調査時閲覧資料)」</u>		再掲
	◆検証の結果に基づいた具体的な改善の実施状況を踏まえて、検証の結果を改善に		
	役立てている状況について、資料を基に記述する。		
	従来の推薦および学力では選考できていなかったアドミッション・ポリシーの(1)		
	「科学技術に関心が高く、研究に関して意欲がある人」を積極的に受入れる為に、		
	研究内容のプレゼンテーション、取組報告書、自己推薦書の各得点を総合的に判定		
	して合否を決めるAO入試を令和2年度専攻科入学者選抜に導入した。また、研究に		
	対する強い意欲のある学生を採用するためにAO入試の得点分布の検証及び改善を実		
	施した。		

観点8-2-③ 実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

【留意点】

○ (2)の体制の整備は、必ずしもこの取組のためだけの組織を整備することを求めているのではなく、既存の委員会で対応することとなっている場合には、当該委員会に関する規定の所掌において定員と実入学者数との関係の把握と 必要な改善のための取組が明示されていることを分析すること。

観点の自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄 備考	再扫
学生定員を専攻ごとに学則等で定めているか。	◇学則等の該当箇所	
■ 定めている	資料8-2-3-(1)-01 「専攻及び入学定員」	
専攻ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を 情しているか。	◇体制の整備に係る規程等がわかる資料	
■ 整備している	<u>資料8-2-2-(1)-02 「入学試験委員会規程」</u>	再扫
	資料8-2-2-(1)-07 「教育改革FD委員会規程」	再打
過去5年間の専攻ごとの入学定員に対する実入学者数が適正であるか。	◇【別紙様式】平均入学定員充足率計算表	
■ 適正である	資料8-2-3-(3)-01 「過去5年間の入学定員に対する実入学者数を示す資料」	
過去5年間で、実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足してい 犬況にあった場合は、改善の取組を行っているか。 ■ 行っている	◆大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合には、該当する専攻について、実入学者数の改善に資する取組や教育環境等の改善により教育等に支障が生じないように取った対応等、実際に行った事例がわかる資料を基に記述する。 <u>資料8-2-3-(4)-01 「学習環境についての学生アンケート」</u> <u>資料8-2-3-(4)-02 「校舎新営」</u> 平成29年度および令和2年度入学者は定員の1.3倍を超過した。平成30年度FD委員会による教育改善に関わる学生アンケート(本科生・専攻科生含む)によると、本校の施設に対する満足度は「満足・どちらかといえば満足」を合わせると77~90%であり適切な教育環境が保たれていることを確認している。また、新校舎(8号館)が平成28年度から予算化され令和元年度に引き渡されたことで学習環境の改善が進	

評価の視点

8-3 修了の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に照らして、学習・教育・研究の成果が認められること。

観点8-3-① 成績評価・修了認定の結果から判断して、修了の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。

【留意点】

○ 学生の成績(修了時のGPA値等。)や修業年限修了率、単位修得率(登録授業単位数に対する修得単位数の率。)等、成果を総合的に分析すること。

観点の自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の			
結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。	◇体制の整備状況がわかる資料		
■ 整備している	<u>資料8-3-1-(1)-01 「学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制の整備状</u>		
_ 12000 (- 0	況がわかる資料(専攻科委員会規定)		
	資料8-3-1-(1)-02 「学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制の整備状		
	況がわかる資料(専攻科授業の履修等に関する申し合わせ)」		
(2) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価しているか。	◇成績評価・修了認定等に関するデータ・資料		
紀未かり子首・教月・研先の成未を17 <u>姓・計画しているか。</u>	資料8-3-1-(2)-01 「成績評価・修了認定等に関するデータ・資料(専攻科委員会議		
■ 把握・評価している			
	事要旨)」		
	<u>資料8-3-1-(2)-02 「成績評価・修了認定等に関するデータ・資料(教員会議議事次</u>		
	<u>第)」</u>		
	資料8-3-1-(2)-03 「体制が機能していることを示す資料(学修の記録(機械・制御		
	<u>コース))」</u>		
	資料8-3-1-(2)-04 「体制が機能していることを示す資料(学修の記録(電気電子・		
	<u>情報コース))」</u>		
	資料8-3-1-(2)-05 「体制が機能していることを示す資料(学修の記録(応用化学		
	<u>コース))</u>		

(3)(2)の結果から学習・教育・研究の成果が認められるか。	◇把握・評価の実施状況がわかる資料	
■ 認められる	資料8-3-1-(3)-01 「学習・教育・研究成果の把握・評価の実施状況が分かる資料	
	(専攻科委員会議事要旨)」	
	資料8-3-1-(3)-02 「学習・教育・研究成果の把握・評価の実施状況が分かる資料	
	(教員会議議事次第)	
	資料8-3-1-(3)-03 「学習・教育・研究の成果がわかる資料(地域連携センターリ	
	ポート第6号(令和元年度)(70~74ページ)学生の研究発表・表彰)」	
	資料8-3-1-(3)-04 「学習・教育・研究の成果がわかる資料(地域連携センターリ	
	ポート第5号(平成30年度) (65~69ページ)) 」	
	◆左記(2)及び上記の資料を踏まえて、学習・教育・研究の成果が認められることに	
	ついて、資料を基に記述する。	
	専攻科課程では学習・教育目標に沿った明確な評価基準、修了要件を設定してお	
	り、講義、演習、実験、実習等において全員が修了要件の単位を取得している。ま	
	た、専攻科研究 ・ では学内での評価に加えて、研究成果の外部発表を多数行	
	い、研究活動に対する外部機関からの受賞など研究の成果も認められる。(資料8-	
	3-1-(3)-03.資料8-3-1-(3)-04) 以上のことから、学生が身に付ける学力や資質・能	
	力についての教育の成果や効果が上がっていると判断できる。	
	MICON COMMINANT TO DOMESTING COM	

観点8-3-(2) 達成状況に関する字生・修了生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、修了の認定に関する方針(ディブロマ・ポリシー)に沿った字習・教育・研究の成果が認められるか。

【留意点】

- (1)の体制の整備が、観点8-3-①同じ体制で実施されている場合には観点8-3-①と同じ資料となる。
- \bigcirc (2)(3)(4)は、観点1-1-3で分析している種々の評価結果の一部と同一のものであるため、内容の整合性に留意して分析すること。

観点の自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・修了生・進路先			
関係者等からの意見聴取の結果に基づいて、学習・教育・研究の成果を把握・評価	◇体制の整備状況がわかる資料		
するための体制を整備しているか。			
■ ##/#!	<u>資料8-3-2-(1)-01 「学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制の整備状</u>		
■ 整備している	況がわかる資料(専攻科委員会規程)」		
	<u>資料8-3-2-(1)-02 「学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制の整備状</u>		
	況がわかる資料(教育改革FD委員会規程)」		
(2) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了時の学生に対する	△辛日琳丽の牡用に開ナスポーカー次料		
意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。	◇意見聴取の結果に関するデータ・資料		
- 4	資料8-3-2-(2)-01 「修了時の学生に対する意見聴取の結果に関するデータ・資料		
■ 行っている	_(専攻科修了時アンケート) 」		
(3) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了生(修了直後でな			
い者)に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行って	◇把握・評価の実施状況がわかる資料		
いるか。			
■ 行っている	資料8-3-2-(3)-01 「修了生に対する意見聴取の結果に関するデータ・資料(専攻科		
	<u>修了生アンケート)」</u>		
(4) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、進路先関係者等に対す	◇把握・評価の実施状況がわかる資料		
る意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。	▽10度・計画の天心仏がかかる具体		
■ 行っている	<u>資料8-3-2-(4)-01 「進路先関係者等に対する意見聴取の結果に関するデータ・資料</u>		
	<u>(卒業(修了)生就業先アンケート)」</u>		

(5)(2)~(4)の評価結果から字省・教育・研究の成果が認められるか。			
■ 認められる			
	◆左記(2)及び上記の資料を踏まえて、学習・教育・研究の成果が認められることに		
	ついて、資料を基に記述する。		
	修了時の学生および修了生共に授業カリキュラム中の実験・実習及び専攻科研究、		
	数学・自然科学の講義の時間が十分であると評価すると共に、自らも構想力、実践		
	力、問題解決能力が身に付いたと評価している一方で、情報系基礎知識および英語		
	力の不足を感じている。(資料8-3-2-(2)-01及び資料8-3-2-(3)-01)		
	企業側からは技術的基礎知識は高いと評価される一方で、英語力やプレゼンテー		
	ション力の不足を指摘されている。 (資料8-3-2-(4)-01)		
観点8-3-③ 就職や進学といった修了後の進路の状況等の実績から判	断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。		
【留意点】なし。			
観点の自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)			
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。			
■ 満たしていると判断する			
自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学校として把握している最近 5 年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。	A France by D. As to the Asset of		
	◇【別紙様式】修了者進路実績表		
- mu > 1 a	資料8-3-3-(1)-01 「最近5年間の修了者の就職率がわかる資料(卒業(修了)者の		
■ 認められる	就職率(平成27~令和元年度))」		
	資料8-3-3-(1)-02 「最近5年間の修了者の進学率がわかる資料(卒業(修了)者の		
	進学率(平成27~令和元年度))」		
(2) 学校として把握している就職先や進学先は、各専攻の養成しようとする人材像			
に適したものとなっているか。			
	資料8-3-3-(2)-01 「修了者の就職先が養成しようとする人材像に適したものとなっ		
■ なっている	<u>員</u> 杯6-5-3-(2)-01 「修り有の机械尤が長成しよりとする人材家に <u></u> 過したものとなり ていることがわかる資料(卒業(修了)者の産業別就職状況(令和元年度))」		
	<u>しいることがわかる員材(平来(修丁)有の産業が就職体が、(事相九年度))」</u>		
	資料8-3-3-(2)-02 「修了者の就職先が養成しようとする人材像に適したものとなっ		
	<u>ていることがわかる資料(H29~R1年度就職先)」</u>		
	資料8-3-3-(2)-03 「修了者の進学先が養成しようとする人材像に適したものとなっ		
	ていることがわかる資料(卒業(修了)者の進学先(令和元年度))」		
	資料8-3-3-(2)-04 「修了者の進学先が養成しようとする人材像に適したものとなっ		
	<u>ていることがわかる資料(H29~R1年度進学先)」</u>		
	◆就職率・進学率や就職先等から、養成しようとする人材像にかなった成果が得ら		
	れているかどうかについて、資料を基に記述する。		
	過去5年間の修了生の就職率および進学率はいずれも100%であり、学習・教育・研		
	究の成果が十分に認められる。(資料8-3-3-(1)-01および資料8-3-3-(1)-02)ま		
	た、各専攻とも主な就職先・進学先は専攻する分野に関係した企業や大学院研究科		
	であり、養成しようとする人材像にかなったものとなっている。 (資料8-3-3-(1)-		
	01.資料8-3-3-(1)-02.資料8-3-3-(1)-03.資料8-3-3-(1)-04)		1

観点8-3-④)修了生の字位取得状況から判断して、字習・教育・研究の成果が認められるか。						
【留意点】 ○ 学位の取得を目的としていない専攻科については、「□学位の取得を	:目的としていないので、該当しない」の欄をチェックすること。					
観点の自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)						
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。						
(リストから選択してください)						
自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲			
(1)過去5年間の修了生の学位取得の状況から、学習等の成果が認められるか。	◇学位取得状況がわかる資料					
■ 認められる	資料8-3-4-(1)-01 「過去5年間の学位取得状況がわかる資料(学位取得率(平成27年度~令和元年度))」					
8-3 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは	は自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意す	⁻べきこと等があれば、記入すること。				
基準 8						
優れた点						
改善を要する点						